



日進北小だより

令和4年10月3日 10月号 第6号
電話 048 (663) 1842 FAX 048 (663) 9884

<http://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標：心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する
～やる気を育む日進北小・授業が楽しい日進北小～



「思い込み」と「多様性」

校長 平塚 信也

夏休みの校内研修でLGBTs「セクシャルマイノリティ(性的少数者)」についての研修を行いました。LGBTsの当事者で講演を数多くされている講師の方から、自分が小中学生の時の気持ちや、学校でできることなどの実践的なお話を伺うことができました。何かお困りのことがあったら学校に是非ご相談ください。研修では、「ジェンダーバイアス(男性、女性としての思い込み)」と「多様性」ということについて学びました。

講師の方も小学校の教員をされていて、「重い荷物を運ぶから男子来て。」とか「女子ここを掃除してください。」など、何気なく使ってしまったと話されていました。私も担任時代は、これは男子向き、これは女子向きなどの思い込みで発言していることも多かったと反省しています。何気ない大人の言葉が子どもにあたえる影響を考えていかなければならないと思います。今の世の中は、女性も外で働いていますし、男性も積極的に家事や育児に関わっています。男だから、女だからという偏った考え方ではなく、人としての個性や多様性が尊重される時代になっています。講師の方に2冊の本を紹介していただきました。「おやこで話す はじめてのLGBTs」、「これからの男の子たちへ」です。良ければ読んでみてください。1冊目は講師の方の書かれた本で、後書きに「私たちは意識している以上に、さまざまな思い込みや勘違いに縛られて生きています。子どもの頃から知らないうちに身につけてきた思い込みは、自分自身を縛る鎖となって、大人になってからも自分を苦しめます。少しずつ、その鎖を緩めることができたら、今よりも自由に生きられるようになるはずなのです。」とありました。

日進北小は公立学校です。公立小学校ですから、様々な環境で暮らし、いろいろな考えの児童がいます。多様性があります。だからこそトラブルもあるし、意見がぶつかることもあります。でも小さい頃から、「世の中には自分と同じ考えの人ばかりではなく、いろんな人がいる。」ということを経験することで、たとえ自分の考えが否定され落ち込んでも、「そういうこともある。」と気持ちを切り替えることができます。つまり「心の弾力性」を持てているということです。へこむことは誰だってあります。大事なのは、そこから本来の自分に戻れるかどうかです。これこそが想定できない未知のことにも対応できる力だと思います。

また、いろいろな子どもがいるということは自分の考えに刺激を受けるということでもあります。その刺激があつてこそ、一つの正解にこだわりすぎることなく、様々な視点から物事を見ていけるようになります。「いろいろな人がいる。あなたが尊重されたいように相手も自分を尊重してほしいと思っている。だからお互いを尊重し合うことが大切だ。」「みんな違うから、助け合うことができる。わからないからわかりたいと思う。」そんな姿勢を育てたいと考えています。そして、「自分だけが良ければよい」というのではなく、「みんなが幸せになるためにはどうすればいいか。」という思考や行動をとれるように成長させたいと思います。日進北小は多様性を大切に、違いを認めあえる教育を実践していきます。今後ともご理解ご協力をお願いいたします。